

## 「第2戦がオレにとっての開幕戦」

谷田川敏幸が自らの手で取り戻した王者のプライド

Text: PLAYDRIVE (編集部) Photo: Mitsuru KOTAKE (小竹亮)、PLAYDRIVE (編集部)



### 全

日本ダートトライアル第2戦九州ラウンドの表彰台で勝利者コメントを求められた谷田川敏幸は、「ありがとうございます……と述べたあとに溢れる涙をこらえきれず「……すみません、ホントにすいません……」と、声を詰まらせた。

谷田川にとってこの第2戦は、どうしても勝ちたい、いや、勝たなければならぬ大会だった。昨年、長年愛用したG



全日本ダートトライアル初開催となったスピードパークの浦で、路面のギャップに飛びさながらも自身の走りでも今季初優勝を飾った谷田川敏幸。

吸気レイアウトなのであれば、なぜ出走前車検で指摘してくれなかったのだろうか」という思いもあっただろう。だが、その裁定を不服とはせず「マシンを製作した自分に責任がある」と受け入れ、再車検に時間がかったこともあり夕間に包まれた中で行われた表彰式を、ひとり離れた場所まで最後まで見続けていた。

チャンピオンマシンのGDB型インプレッサがSC仕様から発展的に製作したマシンとすれば、GV B型インプレッサは最初からDクラスで走ることを想定して製作した初めてのマシンだ。ディフェンディングチャンピオンとしてだけではなく、ダートラ界を牽引する立場として今年に賭ける思いが強かっただけに、開幕戦で受けた「失格」という裁定は、精神的にも谷田川を苦しめた。

「汚名返上するためには勝つしかない」。第2戦でその誓いを果たした谷田川は、表彰台で「第1戦の丸和では皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫言申し上げます。申し訳ございませんでした」と謝罪を述べたあと、こう語った。

「自分にとって今回が開幕戦と思い、一生懸命走りました。なんとか勝たせてもらって本当にうれしく思っていますし、今まで支えていただいた仲間やスポンサーの皆様にご心より感謝申し上げます」。

自らの手ではじめをつけ、王者のプライドを取り戻した谷田川。全日本初開催のスピードパークの浦での優勝は、谷田川にとって忘れられない勝利となった。

DB型インプレッサで自身初となるDクラスチャンピオンを獲得した谷田川は、今シーズンに向けてGV B型4ドアインプレッサをベースに新たなマシンを製作。そのシェイクダウンとなる開幕戦で2位のタイムを残したものの、再車検で車室内からエンジンに吸気させる吸気レイアウトがスピードD車両規定に反すると判定され、失格の裁定を受けてしまった。